

各農業改良普及センター所長様
 各農業協同組合長（営農担当者）様
 各農業関係機関長・団体長様

京都府病虫害防除所長
 （公印省略）

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予報第 2 号（4 月）

予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量 < 平年比(前年比) >
果 樹	カキクダアザミウマ（カキ） 黒斑病（ナシ）	やや少（やや少） やや少（並）
チ ャ	もち病 チャノホソガ カンザワハダニ	やや少（並） 山城 <u>やや多</u> （やや多） 丹波 並（並） 並～ <u>やや多</u> （やや少）
野 菜	コナガ（キャベツ、ハクサイ等） 菌核病（キャベツ）	並（並） <u>やや多</u> （やや多）

平年とは過去10年の平均である。

用語の定義

1 半旬のとり方

	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬
各月の	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～最終
	日	日	日	日	日	日

2 発生量 - - - 病害虫の発生程度と広がりの両面を加味したものをいう。

3 発生及び被害等の程度 - - - 程度は甚、多、中、少、無の5段階に分ける。
それぞれの病害虫の基準については各作物の項参照。

4 平年値 - - - 原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

5 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

- 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること -

イネ

1 苗立枯病

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 病原菌の多くは土壌生息菌である。山土や水田土壌等を使用する場合は、床土のpHを4.5～5.0に調整し、は種前に粉剤の床土混和を必ず行う。
- (2) 低温多湿に経過するとピシウム属菌、高温多湿（特に出芽時）ではリゾープス属菌による苗立枯病が発生しやすくなる。育苗中の温度管理に注意し、出芽後は10～30の範囲で管理する。特に、トンネル育苗では外気の影響を受けやすいので、日中の高温や夜間の低温に注意する。
- (3) 出芽後はこまめに観察し、カビを認めれば直ちに薬剤で防除する。菌の種類により効果のある薬剤が異なるので注意する。

2 もみ枯細菌病（苗腐敗症）

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 病原細菌は種子伝染するため、塩水選ともみ枯細菌病に登録のある農薬を用いた種子消毒を必ず実施する。
- (2) 出芽時の温度は30を基準とする。ただし、加温しない育苗は10～30の範囲で管理する。
- (3) 発病苗を植付けると本田で腐敗し、欠株となるので、発病した苗箱の苗は使用せず処分する。

3 苗いもち

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 種子伝染がいもち病の主要な伝染経路の一つであるため、健全な種子を用い、塩水選と種子消毒を必ず行う。
- (2) 前年の稲わら、もみがらは有力な伝染源となるので、育苗場所の周辺には置かないようにする。

種子消毒について

平成16、17年の調査で**MBI-D剤耐性いもち病菌**が一部地域で確認された。耐性菌の頻度低下と拡大防止のため、健全な種子を用い塩水選と**種子消毒**を必ず行う。

MBI-D剤：カルプロパミド（商品名：ウィンなど）、ジクロシメット（商品名：デラウスなど）、フェノキサニル（商品名：アチーブなど）

ムギ

赤かび病

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 開花期から二週間以内に雨が多いと発病が多くなる。開花は出穂期からおよそ一週間後である。防除適期は開花初期～開花最盛期であり、防除を徹底する。
- (2) 六条大麦は特に発生しやすい。
- (3) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり、防除効果が低下しやすいので、出穂前にほ場の排水を良くする。
- (4) 赤かび病菌は人畜に作用性の強いカビ毒をつくる。

果樹

1 カキクダアザミウマ（カキ）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

予報の根拠

- (1) 前年秋期の被害果率は、平年比やや少なかった（-）。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 4月下旬頃に越冬場所から新芽に移って、展開後2～3日以内の若葉に寄生する。
- (2) 越冬後の成虫は、展葉5～6枚の頃に若葉に飛来が多くなり、この頃が防除適期となる。産卵により葉が巻き始めると防除効果が低下する。

2 黒斑病（ナシ）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年並）

予報の根拠

- (1) 越冬罹病芽率は平年比やや少ない（-）。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない（-）、日照時間は平年並または多い（-）と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 気温が高く、降雨日数が多い年は多発しやすい。
- (2) 受粉直後から新芽伸長期にかけての防除が重要である。

チャ

1 もち病

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年並）

防除時期：萌芽～1葉期

予報の根拠

- (1) 前年秋期の発生量は平年並。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない(-)、日照時間は平年並または多い(-)と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 越冬芽に付着した胞子が3月下旬頃から発芽し始め、新芽の生育につれて若葉に感染する。
- (2) 雨が多く、じめじめした天候が続くと多発する。
- (3) 昨年、秋期に多発した園では注意する。

2 チャノホソガ

予報内容 発生量：山城地域 平年比やや多い(前年比やや多い)
丹波地域 平年並 (前年並)

防除時期：2葉期

予報の根拠

- (1) 前年秋期の発生量は、山城地域で平年比やや多い(+)、丹波地域で平年比やや少ない(-)～並。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 蛹で越冬後、4月上旬～5月上旬に成虫が羽化し、新芽に産卵する。気温が高いと発生が早くなる。
- (2) ふ化した幼虫は若葉裏面の表皮下に食入し、成長すると葉を三角形に巻く。
- (3) 秋整枝をしなかった園や自然仕立て園では発生しやすい。
- (4) 巻葉内に堆積した虫糞により製茶品質が低下するので、摘採近くになって巻葉を生じた場合は速やかに摘採する。なお、摘採が遅くなる園では、幼虫の発生に十分注意する。

3 カンザワハダニ

予報内容 発生量：平年並～やや多い(前年比やや少ない)

予報の根拠

- (1) 3月第5半旬の調査では、発生量は例年並。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない(+)と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 気温が上昇し、暖かい晴れた日が続くと、急速に増殖する。
- (2) この時期の防除は重要であるが、必ず萌芽前に行う。

4 その他の病害虫

灰色かび病

丹波地域の広域で本病の発生を認めた。積雪下の高湿度条件が感染を促し、融雪期以降の気温上昇と湿潤条件が影響したと思われる。また、花が感染源となることが知られている。

発病葉が落葉し樹勢が低下することもあるので、肥培管理等に注意する。

野菜

1 コナガ（キャベツ、ハクサイ等）

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- （１）３月下旬現在、例年同様発生を認めていない。
- （２）向こう１か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない（＋）と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）雨が多いと発生が抑制される傾向がある。
- （２）近年、コナガの発生は全般的に少ない。

2 菌核病（キャベツ）

予報内容 発生量：例年比やや多い（前年比やや多い）

予報の根拠

- （１）３月下旬現在、発生量は例年比やや多い（＋）。
- （２）向こう１か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない（－）、日照時間は平年並または多い（－）と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）春に発生が多く、適温は２０前後、曇雨天が続いた時に発生しやすくなる。
- （２）発生終期に菌核が形成され土中に落ち、次の伝染源となる。菌核は土壌中で２～３年間生き残る。

3 トマト黄化葉巻病

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV：Tomato Yellow Leaf Curl Virus）の感染により引き起こされる病気である。昨年１２月に府南部のハウス栽培トマトで発生が確認された。
- （２）シルバーリーフコナジラミを介して伝染するので、シルバーリーフコナジラミの発生状況に注意する。
- （３）発病した株については抜き取り、袋に入れて密封して枯死させるか土中に埋めて処分する。

１月４日付特殊報第３号及び２月２４日付資料「トマト黄化葉巻病について」

を参照のこと

4 野菜苗の害虫類（ハモグリバエ類、アザミウマ類、コナジラミ類）

購入苗の使用に当たっては、害虫が寄生していないことを確認する。なお、微小な害虫が多いので注意する。

残留農薬のポジティブリスト制度について

5月29日から残留農薬値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止する制度（いわゆるポジティブリスト制度）が施行されます。この制度が実施されると、残留基準が設定されていない農薬に農薬取締法に基づく基準、国際基準等を参考にした「暫定基準」が、基準のないものには「一律基準（0.01ppm）」が設定されます。

隣接作物に散布された農薬の飛散（ドリフト）があった場合、農薬が基準値を超えて検出されることが懸念され、基準値を超えた場合、その作物は出荷停止になります。

農薬の散布に当たっては、農薬使用基準を遵守し、飛散のないよう、これまで以上に注意してください。

病虫害防除については、病虫害防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

また、調査結果については防除所FAXサービス（0771-23-6539）をご利用下さい。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コナ」をご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

< 参考 >

近畿地方 1 か月予報

（3月25日から4月24日までの天候見通し）

平成18年3月24日
大阪管区气象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。1週目は平年に比べ気温の低い日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年並でしょう。降水量は平年並または少ない見込みです。

日照時間は平年並または多いでしょう。

週別の気温は、1週目は低く、2週目と3～4週目は共に平年並の見込みです。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	30	40	30
降水量	40	40	20
日照時	20	40	40

農業改良普及センター 電話番号一覧

・ 京都乙訓	農業改良普及センター	075 - 315 - 2906
・ 山城北	農業改良普及センター	0774 - 62 - 8686
・ 山城南	農業改良普及センター	0774 - 72 - 0237
・ 南丹	農業改良普及センター	0771 - 62 - 0665
・ 中丹東	農業改良普及センター	0773 - 42 - 2255
・ 中丹西	農業改良普及センター	0773 - 22 - 4901
・ 丹後	農業改良普及センター	0772 - 62 - 4308

農作物病虫害情報サービス

・ テレホンサービス

0771 - 23 - 6442

・ FAXサービス

0771 - 23 - 6539

・ ホームページアドレス

<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

京都府病虫害防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-9513